別添様式４―１

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名　社会福祉法人愛成会

研修事業の名称　よこはま介護アカデミー介護職員初任者研修

1　職務の理解（　6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①　多様なサービスの理解	3時間	《講義内容》 〇介護保険サービス（居宅、施設） 〇介護保険サービス
②　介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	《講義内容》 〇居宅、施設の多様なはたらく現場におけるそれぞれの仕事内容 〇居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ 〇ケアプランの位置づけに始めるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 《演習内容》 前向きな介護とは何かをグループで話し合い、発表。講師が評価する。
合計	6	

２　介護における尊厳の保持・自立支援（　9時間）					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　人権と尊厳を支える介護	6時間	1.5時間	4.5時間	1-1 ～ 1-8	《講義》 ○人権と尊厳の保持 ○介護保険におけるＩＣＦ ○ＱＯＬの考え方 ○ノーマライゼーションの考え方 ○虐待防止・身体拘束禁止 ○個人の権利を守る制度 《演習》 高齢者や障害者とその家族がどのような偏見や差別を受けているかを検討し、講師が講評。 《通信課題概要》 尊厳とは何か、ＱＯＬ、ノーマライゼーションの考え方の理解、虐待防止、身体拘束禁止についての理解。
②　自立に向けた介護	3時間	0時間	3時間	1-9 ～ 1-10	《通信課題概要》 ○介護保険における自立・自律支援の意義と重要性 ○個別ケアの考え方 ○介護予防、重度化防止の視点と重要性
合計	9	1.5	7.5		

3　介護の基本（　6時間）					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　介護職の役割、専門性と多職種との連携	6時間	1.5時間	0時間		《講義》 《講義内容》 (1)介護環境の特徴と理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い○地域包括ケアの方向性 (2)介護の専門性 ○重度化防止の・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム (3)介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担 《演習内容》 ○チームケアの必要性に関する事例を基に、福祉専門職と保健・医療専門職それぞれが果たしたチームケアでの枠割を、グループで検討し発表。講師が講評する。

②　介護職の職業倫理		1.5時間	0間		《講義内容》 職業倫理 〇専門職の倫理の意義、〇介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、〇介護職としての社会的責任、〇プライバシーの保護・尊重 《演習内容》 〇職業倫理に関わる事例を基に「自分であればどのように対応していきたいと思うか」をグループで検討し発表。講師が講評する。
③　介護における安全の確保とリスクマネジメント	時間	0時間	1.5時間	2-1 ～ 2-5	《通信課題の概要》 〇介護における安全を確保するための手法 〇事故発生時の対応 〇リスクマネジメント 〇情報共有 〇感染症の予防と対策
④　介護職の安全	時間	0時間	1.5時間	2-6 ～ 2-8	《通信課題の概要》 〇介護職の健康管理の意義 〇腰痛の予防に関する知識 〇手洗いの基本 〇感染症対策
合計	6	3	3		

4　介護・福祉サービスの理解と医療との連携（　9時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　介護保険制度	3時間	1時間	2時間	3-1 ～ 3-3	《講義》 ○介護保険制度の基本的仕組み ○地域包括ケアシステムについて ○予防重視型システムへの転換 《演習》 グループワークにて地域包括ケアシステムについて自分の周りに当てはめて考え発表、講師が講評する。 《通信課題の概要》 ○介護保険制度創設の背景、目的、動向の理解 ○介護保険制度の仕組みの理解
②　医療との連携とリハビリテーション （1）医療との連携	2時間	1時間	1時間	3-4 ～ 3-8	《講義》 ○医行為と介護 ○施設における看護と介護の役割、連携 《通信課題の概要》 ○訪問看護についての理解 ○介護職員が行える医行為についての理解
②　医療との連携とリハビリテーション （2）リハビリテーション	1時間	0時間	1時間	3-9 ～ 3-11	《通信課題の概要》 ○リハビリテーションの理念
③　障害福祉制度及びその他の制度	3時間	0時間	3時間	3-12 ～ 3-15	《講義》 ○障害の概念、障害者福祉制度の理念 ○障害自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○個人の権利を守る制度の概要
合計	9	2	7		

5　介護におけるコミュニケーション技術（　6時間）					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　介護におけるコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	4-1 ～ 4-3	《講義内容》 ○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○傾聴、共感の応答 ○コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の状況、状態に応じたコミュニケーションの技術の実際 《演習》 ケア・タッチング、傾聴、沈黙の体験・聴くこと・聴かないことなどをグループワークで体験し、感じたことを発表。講師が講評する。 《通信課題の概要》 ○非言語コミュニケーションの理解 ○障害に応じたコミュニケーション方法と留意点についての理解

② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	4-4 ～ 4-6	《講義内容》 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ○報告・連絡・相談の留意点 ○介護職に求められる観察眼 ○チームケアの必要性やケアカンファレンスの重要性の理解 《演習》 ○5W1Hを基本に介護記録を作成、記入し講師が講評する。 ○事例を基に「記録の重要性」に関して、検討し発表。講師が講評する。 《通信課題概要》 ○介護現場における記録の目的・意義を理解し、記録の重要性、種類を理解する。 ○チームケアの必要性やケアカンファレンスの重要性を理解する。
合計	6	3	3		

6　老化の理解（　6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　老化に伴うこころとからだの変化の理解	3時間	2時間	1時間	5-1 ～ 5-3	《講義》 ○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○身体機能の変化と日常生活への影響 ○精神的機能の変化と日常生活への影響 《通信課題概要》 ○老化に伴う心身の変化の特徴を理解する
②　高齢者と健康	3時間	1時間	2時間	5-4 ～ 5-8	《講義内容》 ○高齢者に多い疾患、老化に伴う疾患の理解 ○高齢者の疾患とその日常生活上の留意点、介護者としての観察の視点 《演習》 ○高齢者の疾患の特徴と観察する際の留意点について検討し発表。講師が講評する。 《通信課題概要》 ○高齢者に多い疾患、生活習慣病、老化に伴う疾患の理解
合計	6	3	3		

7　認知症の理解（　6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　認知症を取り巻く状況	1時間	0時間	1時間	6-1	《通信課題概要》 ○認知症ケアの理念、視点についての理解
②　医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	1時間	1時間	6-2 ～ 6-7	《講義》 ○認知症の概念 ○原因疾患とその病態、疾患別ケアのポイント ○認知症の人の健康管理 《通信課題概要》 ○認知症の症状、認知症の人の健康管理について理解する
③　認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	2時間	0時間		《講義》 ○中核症状、行動・心理症状（BPSD）の理解 ○症状に応じた生活環境や介護者の対応、コミュニケーションの方法 ○認知症の進行に合わせたケアの重要性 《演習》 ○認知症の人とのコミュニケーションで必要なことを検討し発表。講師が講評する。
④　家族への支援	1時間	0時間	1時間	6-8	《通信課題概要》 ○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減（レスパイトケア）
合計	6	3	3		

8　障害の理解（　3時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①　障害の基礎的理解	1時間	1時間	0時間		《講義内容》 ○障害の概念、ＩＣＦの考え方 ○障害者福祉の基本理念「ノーマライゼーション」の概念の理解
②　障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間	1時間	0時間		《講義》 ○身体障害、知的障害、精神障害の理解 ○その他の心身の機能障害の理解 ○障害が人に与える心理状態や行動、社会活動における影響の理解
③　家族の心理、かかわり支援の理解	1時間	1時間	0時間		《講義》 ○障害者・児を支える家族の心理や障害受容の過程、かかわり支援についての理解 《演習》 ○障害のある本人を支える家族への支援にはどのようなものがあるかグループで検討し発表。講師が講評する。
合計	3	3	0		

9　こころとからだのしくみと生活支援技術（80 時間）						
基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	①　介護の基本的な考え方	5 時間	3 時間	2 時間	8-1	《講義》 ○ＩＣＦの視点に基づく生活支援 ○法的根拠、理論に基づく介護 ○我流介護の排除 《通信課題概要》 ○法的根拠に基づく介護 ○医療サービスと介護サービスの役割の違い ○利用者主体の介護
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	2 時間	1 時間	8-2 ～ 8-3	《講義》 ○学習と記憶、感情と意欲の基礎知識 ○マズローの要求階層説と自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 《通信課題概要》 ○老年期の生きがいや喪失体験・人間関係・社会的役割 ○こころの持ち方が体に与える影響 ○体の状態がこころに与える影響
	③　介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	2 時間	1 時間	8-4 ～ 8-9	《講義》 ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○ボディメカニクスの活用 ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 ○こころとからだを一体的にとらえる介護 《通信課題概要》 ○基本的人体の構造と機能 ○バイタルサインについての理解

生活支援技術の講義・演習	④　生活と家事	3時間	1時間	2時間	8-10 ～ 8-12	《講義》 家事と生活の理解、家事援助に関する知識的知識と生活支援 《演習》 ○グループワークで、生活支援としての家事サービスについて、具体的に話し合い、発表。講師が講評をする。 《通信課題概要》 ○家事と生活の理解 ○家事援助に関する基礎的知識と生活支援
	⑤　快適な居住環境整備と介護	3時間	2時間	1時間	8-13 ～ 8-14	《講義》 ○快適な居住環境に関する基礎知識 ○高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 《演習》 ○事例を基に必要な環境整備について検討、発表。講師が講評する。 《通信課題概要》 ○快適な居住環境についての理解 ○住居の安全と事故防止に向けた環境整備
	⑥　整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6間	6間	0間		《講義》 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身じたく、○整容行動、○洗面の意義・効果、○口腔ケア○誤嚥性（ごえんせい）肺炎の予防 《演習内容》 ○前開きの上着の着脱の介助、○かぶりの上着の着脱の介助、○ズボンの着脱の介助、○ベッド上で浴衣交換の介助、○ベッド上でかぶりのもの上着交換の介助、○ベッド上でズボン交換の介助、○洗面・洗顔に関する介助、○手指の爪の手入れ・爪切り介助、○歯ブラシによる口腔ケア

	⑦　移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（6H×2回）	12時間	12時間	0時間		《講義》 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原理、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、○移動介助（車いす、歩行器、つえ等）、○褥瘡予防 《演習》 ○水平移動（手前から奥へ）体位変換の介助、○水平移動（奥から手前へ）体位変換の介助、○仰臥位から端坐位への体位変換の介助、○車いすへの移乗、○車いすの構造の理解、正しい扱い方、使い方、○車いすを使って、段差を上がる・下がるの介助、○車いすを使って、坂を上がる・下るの介助、○杖を使用した基本的な歩行介助、○視覚障害者の基本的な歩行介助

	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間		《講義》 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備（時間・場所等）、○食事に関した福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義 《演習》 ○食事介助の準備、○自立度が高い利用者に対する食事介助、○一部介助を要する利用者に対する食事介助、○全介助を要する利用者に対する食事介助、○認知症の症状がある利用者に対する食事介助、○視覚障害がある利用者に対する食事介助
	⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間		《講義内容》 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄（臥床状態での方法）、○足浴・手浴・洗髪 《演習内容》 ○方まひのある利用者に対する入浴介助、○手浴の部分浴介助、○足浴の部分浴介助、○陰部洗浄に関する介助○顔から耳の清拭介助、○上肢の清拭介助○下肢の清拭介助○胸部・腹部・背部・腰部・臀部の清拭介助、○洗髪の介助

	⑩　排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間		《講義内容》 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは、○身体面（生理面）での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段／おむつの弊害、○排泄障害が日常生活に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） 《演習内容》 ○トイレを使った排泄介助、○ポータブルトイレを使った排泄介助、○テーブル止め紙おむつ交換の介助、○尿器・差し込み便器での排泄介助、○一部介助を要する利用者の尿器の介助
	⑪　睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間		《講義内容》 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、○安楽な姿勢・褥瘡予防 《演習内容》 ○ベッドメイキング、○睡眠障害時の基本的な介助、○仰臥位で寝ている利用者に対する介助、○端座位で寝ている利用者に対する介助、○側臥位で寝ている利用者に対する介助、○半座位で寝ている利用者に対する介助、○褥瘡予防のための体位変換

	⑫　死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	6時間	3時間	3時間	8-15 ～ 8-17	《講義》 ○終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ」 ○生から死への過程、死に向き合う心の理解 ○苦痛の少ない死への支援 《演習》 ○事例を基に本人家族への支援方法の検討、発表。講師が講評する。 《通信課題概要》 ○死にゆく人のこころの過程と死の受容・精神的苦痛の種類と原因、看取りにおける対応についての理解
生活支援技術演習	⑬　介護過程の基礎的理解	3時間	《講義》 ○介護過程の目的と意義、展開 ○介護家庭の基本的な流れとチームアプローチ ○ケアプランの読み方、作成方法 《演習》 ○ケアプランの作成			
	⑭　総合生活支援技術演習	6時間	《講義・演習》 ○生活の各場面での介護について、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状態に合わせた介護をする視点の習得 ○ロールプレイにて介護手順の実践、介護技術の習得			
実習（協賛事業所において施設。居住型実習及び通所事業所実習を実施）		6時間	実際の介護現場を体験することにより、これまでに学んだことがどのように活用されているか、どのような場面で活用できるか、どのように行われているかを学ぶ。利用者と接することにより、利用者のこころとからだの仕組みを体感する。			
合計		80				

１０　振り返り（　4間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①　振り返り	2時間	《講義》 ○研修を通じて学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと、○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 《演習》 グループワークにて自分の中の介護観を言語化する。
②　就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2時間	《講義》 ○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的イメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介
合計	4	
全カリキュラム合計時間	135時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名